

第三者評価結果シート・コピー（乳児院）

種別	乳児院
----	-----

①第三者評価機関名

セリオコーポレーション株式会社

②評価調査者研修修了番号

SK15100
S15123
S15124

③施設名等

名称：	浜松乳児院
施設長氏名：	水谷暢子
定員：	15名
所在地(都道府県)：	静岡県
所在地(市町村以下)：	浜松市中区鴨江二丁目11番3号
T E L：	053-454-7841
U R L：	http://tootsu.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	1974/5/1
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人遠淡海会
職員数 常勤職員：	20名
職員数 非常勤職員：	4名
専門職員の名称（ア）	保育士・児童指導員
上記専門職員の人数：	12名
専門職員の名称（イ）	社会福祉士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（ウ）	認定心理士
上記専門職員の人数：	3名
専門職員の名称（エ）	管理栄養士・栄養士
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（オ）	看護師
上記専門職員の人数：	2名
専門職員の名称（カ）	医師
上記専門職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	乳児寢室・乳児観察室
施設設備の概要（イ）設備等：	サンルーム兼ほふく室、面会室、遊戯室
施設設備の概要（ウ）：	親子生活訓練室、心理療法室
施設設備の概要（エ）：	調理室、浴室

④理念・基本方針

養育理念：

◇安心できる良い環境づくり◇

～かけがえのない大切な生命（いのち）の輝きを温かく見守る養育～

- 1 一人ひとりの子どもの最善の利益を追求する。
- 2 子どもの権利を護り、快い体験をたくさん引き出す家庭的養育により、将来の人格形成の基礎となる基本的信頼感を獲得させる。
- 3 安心、安全感のある応答的環境の保障により、共感、思いやり、自尊感情を育む。
- 4 個（性）を尊重し、たくましく、社会性を伸ばし自立への支援をする。
- 5 認め合い・分かち合い・支え合いにより、世代を超えたより良い絆を大切に家庭再生のための養育支援を行う。

基本方針：（平成29年度法人基本方針）

- 1 福祉サービスの質の向上
・日常業務の標準化や業務の見直しを通じて乳幼児から高齢者に至る多様な福祉ニーズを反映した利用者本位の福祉サービスの質の向上に努めます。
- 2 地域との連携及び地域貢献並びに公益的機能の充実
・地域との交流の推進を図り、合わせて社会福祉法人としての社会貢献及び公益的機能の充実を図ります。
- 3 安定的かつ健全な経営基盤の確立
・自己収入で支出を賄うよう工夫するとともに、無駄をなくし、効率化に努め、健全な経営の確立に努めます。
- 4 責任と権限の明確化及び法令遵守（コンプライアンス）の徹底
・組織としての事業活動を実践しているという原点に戻り、職員一人ひとりの組織上の役割、権限、責任を明確にして、組織一体となって業務遂行にあたります。合わせて、関係法令、法人の定めた諸規定はもとより、法人の理念や社会的ルールを遵守した経営に努めるとともに、その実現のための取組を推進します。
- 5 職員が働きやすい就業環境の整備及び有能な人材の育成確保
・職員が誇りをもって働きがいのある職場の環境づくりに努めるとともに、研修等への参加機会を積極的に提供し、職員の資質向上及び有能な人材育成に努めます。

⑤施設の特徴的な取組

浜松乳児院は、子どもたちの心身の状況や胎内も含めた環境のアセスメントをしっかりと行い、その子どもに必要な個別的な養育支援計画を、養育・看護・食育・家庭支援・心理・さらに医療機関・嘱託医の診断と助言に基づいたりハビリテーションの領域で立て、養育支援することを目指しています。このため、ケースカンファレンスを乳児院職員だけでなく、発達支援事業（ケースカンファレンス・行動観察・心理判定）と連動して、児童相談所の児童福祉司・児童心理司の参加も得て開催し、外部の専門家の見立ても頂きながら、一人ひとりの子どもをよくアセスメントし支援するよう努力しています。更に、静岡県児童発達改善モデル事業、浜松市乳児院入所児童生活支援事業を実施し、ベビーマッサージやプレイセラピーの手法による「治癒的遊び」の効果の検証を行い、理学療法的観点からの発達支援のスーパーバイズを受け、子どもの発達状況の改善に取り組み成果を上げています。家庭復帰を目指し、親子関係構築にも力を入れています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/10/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2018/4/6
受審回数	2回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

◇特に評価が高い点

◆乳幼児の健康管理に関して、「健康日誌」「看護記録」により、乳幼児一人ひとりの健康状態を把握しており、怪我や発疹の状態によっては写真に記録してその後の経過観察や対応に備える、きめ細かい配慮がある。また健康状態に異常が認められる場合には、職員の配置等で病院への受診に対応している。服薬を必要とする乳幼児に対する服薬管理に関しては、定められたルールに従って二重チェック体制で対応しており、職員は適切な服薬コンプライアンスを実施している。毎週の嘱託医の往診に加え、小児精神科医や理学療法士が支援のために定期的に来所するなど、医療機関・関係者等との適切な連携による協力体制を整えている。

◆個別に対応する内容の「おたより」を、家族向け季節ごとに発行しており、日常の生活の様子等、子どもの成長を伝えていく。また、家庭支援専門相談員を核として、家族との信頼関係を築くことに努めており、合わせて保護者等に積極的に面会交流を促して相談支援につなげ、必要に応じて養育に関するスキルアップのための支援を行っている。

◇改善が求められる点

◆施設における職員の教育・研修計画が策定されていないことから、職員に必要とされる専門技術や専門資格等に関する、教育・研修の機会が十分には確保されていない。今後は、職員の教育・研修に関する基本方針にもとづいた研修計画等を策定し、実施される研修計画や研修内容に関する定期的な評価・見直しを実施できる、仕組みの構築が求められる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

これまで2回受審した第三者評価結果と今回の受審評価結果をみますと、受審後に努力・改善が進んだ項目と未だに進まぬ項目が明確になってきたように思われます。同じ評価機関での受審により、前回受審時や自己評価結果よりもよい評価を頂いた項目もあり、第三者の目で見えて頂いての少しでも前進の評価は、職員にとっては、今後の励みになるものと嬉しく思われます。

社会福祉制度改革や新しい社会的養育ビジョン、乳児院・児童養護施設の多機能化に関するプロジェクトチームなど乳児院を巡る大きな動きの中、中長期計画、人材確保・育成に向けての大きな課題が示されました。今回の受審で、自らの足元を見直し、これからの社会の要請に向け歩む足がかりが見えたのではないかと思います。

第三者評価結果（乳児院）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○
【コメント】		
養育理念、基本方針を施設内の要所に掲示すると共に、年度当初には職員に配布し、会議等で説明して周知している。保護者等には養育理念を分かりやすく記述した「パンフレット」を使用して説明している。法人が運営する各施設に共通する、法人基本方針を策定しており、具体的な支援の指針を示し、常に状況に即した内容とするため、各年度ごとに見直しを行っている。法人のホームページに養育理念と基本方針を掲載し、各施設ごとの特徴等の説明が加えられている。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【コメント】		
社会福祉全体の動向等を、行政機関や関係機関・団体等の会合や研修、広報誌等から収集して法人全体で共有し、分析して施設運営に活用している。地域に密着した情報（地域ニーズ）等も、他の福祉関連事業者等との交流から把握している。施設内では、これらの情報を職員会議等で話し合い、共有している。改正児童福祉法により、子どもの権利擁護や虐待防止等の社会全体で取り組むべき課題が多く示され、施設経営に大きく影響すると考えられることから、将来に向けた経営見直し等を法人と連携し分析している。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【コメント】		

経営状況や改善すべき課題等について、法人の専管事項や施設の具体的な改善課題等の現状分析にもとづき、課題や問題点の明確化、経営側と職員との共通意識の醸成、具体的な改善課題等に関し、乳児院が今後求められる役割などの見通しと合わせ、本年度の事業計画に具体的に示して、取り組みに関する方向性などで法人との連携を図っている。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【コメント】		
中長期計画書として策定しているものは存在しないが、中長期の法人・施設の将来に向けたビジョンを示し、人材の確保・育成、地域ニーズや地域との交流の見通し、公益的事業の展望やフォスタリング計画との関連、さらに児童相談所との役割分担、児童養護施設との連携等々、今後、中長期にわたり取り組むべき事項を具体的に明記した文書がまとめられている。その内容から中長期計画書に準ずるものとみて差し支えないが、計画書に求められる各事業の期間や、達成度の目安になる数値目標は示されておらず、事業計画書としては不十分である。		
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
【コメント】		
単年度の計画は各年次ごとに策定されており、課題を箇条書きで示し、該当年度の重点事業を一つひとつ説明し目標を示している。しかし中長期計画が不完全なものであることから、年次をまたぐ計画においては、計画期間の何年目にあたるのかなど進捗の度合いが不明確である。また前年度とのつながりが説明されていないことから、各年次計画を見比べなければ計画の開始・終了の時期が判然としない。中長期と単年度、及び年次間の関連性を分かりやすく示した、それぞれの計画書の策定が求められる。		
(2) 事業計画が適切に策定されている。		
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○
【コメント】		
事業計画の策定に関し、多くの職員の参画のもとで、意見等を集約し反映して策定している。事業計画は職員会議等において説明し、理解を促すなど周知に努めている。一方で、計画期間中における進捗状況はルールが定められておらず確認できていない。これは前述の、計画期間や進捗度等の数値目標が設定されていないことに起因する。事業計画書の検討と併せて改善に取り組むことが期待される。		
②	7 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b

<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

【コメント】

事業計画の主な内容を保護者等に周知する取り組みとして、事業計画を施設内の閲覧用資料として開示することで対応している。必要に応じて説明する場合には個別に対応する方針である。施設(乳児院)の特性により、保護者会等の集会は開催していない。乳児院としての可能な範囲の対応は実施している。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	

【コメント】

養育・支援の実施状況の確認に関して、養育担当者が作成する「支援目標・反省」の記録にもとづき、全職員で共有し評価・検討している。毎年、定められた評価基準にもとづく自己評価を実施し、気付きにつながる基となる資料をまとめている。加えて定期的に第三者評価を受審している。一方でそれらの結果を、定められたルールにもとづき組織的に分析・検討する、委員会などの仕組みは整備されていない。養育・支援の質に関する基礎資料を十分に活用する工夫と、そのための仕組みの整備が望まれる。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

第三者評価や自己評価及び支援目標・反省の記録等、定期的に評価・分析した結果をまとめて職員間で共有しているが、前述したように、職員が参画して組織的に改善計画を策定し、年次や中長期の事業計画に位置付けるまでには至っていない。計画的な改善策を実施し、必要な見直しをPDCAサイクルにもとづいて、組織的に行えるような取り組みが期待される。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結
① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○

<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

施設長は、施設の運営管理に関する基本的な考え方や取り組みの方針、さらに自らの役割と責任を事務分掌等に明確に示し、文書化して職員会議等で説明し理解を促している。ただ、施設長が不在の折の権限委任に関しては明示されていない。緊急時の対応等を示した、リスクマネジメント関連のマニュアル等にも記述はないので、事務分掌や、緊急時の対応マニュアル等で明確に示すことが求められる。

<p>② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。</p>	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

施設長は、法令遵守の観点から施設運営に関して必要を認める研修等の機会には、積極的に参加して自己研鑽を積むと共に、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、コンプライアンスに関する職員研修等を実施して理解を促している。また、行政機関や全国乳児福祉協議会等の関係団体との連携や、インターネットの利用で、常に最新の情報を取得することに努めている。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

<p>① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。</p>	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

施設長は、子どもにとってよりよい養育・支援を目指し、実施状況を把握して評価・分析、及び見直しを行い、自ら指導して組織的に課題改善の取り組みを進めており、養育・支援の質の向上に努めている。また職員研修等による知識・スキルの向上を図ることに努め、自己研鑽の必要性を、施設長自らの行動で示している。

<p>② 13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。</p>	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○

【コメント】

施設長は、職務分掌等に示されている施設運営に関する自らの役割と責任において、経営上の評価・分析を行い課題等の改善に努めている。社会福祉全体の動向からみると、今後の施設（乳児院）運営に多くの変革が求められており、将来に向けた人材確保・育成や職員の就労環境の整備等を見据え、現状の再評価等の必要性の観点に立って、具体的な取り組みにつなげていく方針である。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職（有資格の職員）の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保（採用活動等）を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○
【コメント】		
本年度の事業計画で、静岡県「家庭的養護の推進に向けた静岡県推進計画（H27-H41）」にもとづく、人材の確保・育成等の進め方や、5年ごとの進捗により見直しを図る方針が示されている。計画がスタートしてから3年目にあたる本年度は、まだ具体的な方針が固まっていない状況であるが、現在は年次ごとに引き継いできた基本的な計画に沿った人材の確保・育成が実施されている。採用活動から人材の確保・育成までの取り組みの方向性は、法人行動規範の中の「人材育成、適切な人事・労務管理の実施」の方針に沿って行われている。		
②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 人事基準（採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準）が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。	
【コメント】		
養育理念や基本方針で、施設が職員に求める、養育・支援の考え方や具体的な内容を示している。現在、明確な人事基準にもとづく人事考課等は実施されていないが、本評価基準では、一般的な人事管理モデルを一律に求める訳ではないことから、当該施設に適した方法で職員の意見や意向等を把握し、職員に周知をしたうえで実施される、一定の人事基準にもとづいた評価（人事考課）を行い、職員処遇の改善等につなげることで、人事管理の仕組みを構築することが期待される。		
(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	

人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。

【コメント】

職員の意向の把握や就業状況等にもとづいて、労務管理を行っている。具体的には、毎年職員の意向調査を実施してワークライフ・バランスに配慮した取り組みを行っている。例えば、職員の事情により就労が時間的に困難な状況が生じた場合に、同法人内の他施設への人事異動等で、退職の事態を回避するなどの配慮がある。また、ミニ福祉相談会、インターンシップ等の取り組みを行っている。課題としては定期的な面談等を行って、職員の意見・要望等を聴き取るための工夫を検討する余地が残されている。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	

【コメント】

施設の「期待する職員像」は基本方針等に明確に示されており、方針等を全職員で共有している。全国乳児福祉協議会の「乳児院の研修体系」による、職員の処遇改善のための体系化が進められているが、当該施設における現状は、それに沿った研修内容の管理までには至っておらず、職員の教育・研修に関する計画的な取り組みは、まだ十分ではない。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

現在、職員の教育・研修計画が策定されていないことから、基本方針等で示されている職員に必要とされる専門技術や専門資格等に関する、教育・研修の機会が十分に確保されていない。まず、基本方針にもとづいて職員の教育・研修に関する内容に沿った研修計画等を策定し、実施される研修計画や研修内容を、定期的に評価・見直しを行う仕組みの構築が求められる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員の教育・研修計画は策定されていないが、従来からの施設の教育・研修への取り組みとして定着している、職員の経験や習熟度に配慮したOJTの実施に加え、専門性等を考慮した、階層別、職種別、テーマ別等の研修への振り分けが行われ、参加者は研修の結果を復命書により報告して職員会議で共有している。さまざまな研修の情報も提供されており、職員の意見等も反映されて、職員一人ひとりが教育・研修に参加できるように配慮されている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

実習生の養育・支援に関するマニュアルが整備され、専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明確にしている。専門職種の特性に配慮した（保育・看護・食育等）プログラムや、計画に沿って養育に関わることができるような工夫がされている。学校側との実習期間における継続的な連携の維持にも配慮し、「実習生勤務表」を作成し職員にも配布して実効性のある研修を実施している。実習の経過等を実習簿に記録し、実習生の状況把握に加えて、実習後のアンケート等により課題も明確にされている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

第三者
評価結

①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

法人行動規範の「説明責任（アカウンタビリティ）の徹底」にもとづき、ホームページや広報誌等で、社会福祉法人の専管事項として情報公開を適切に実施している。その中では、運営する各施設ごとの理念や基本方針、実施される福祉サービスの説明、事業報告等に加え、地域等との関連事項や苦情に対する解決状況も含まれている。施設においては、法人で公開されている情報の、さらに詳細な説明が必要な事項を整理して、事業計画・報告やその他の施設内文書、広報誌等で、保護者等関係者に明示して説明を加え、運営の透明性を確保している。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

経営・運営に関して、施設においては事務分掌等で権限や責任が明確にされており、職員に周知している。事務や経理、取引等に関して専門的助言等が必要な場合は、法人の担当者や内部監査における監事の指導を受けることができる。法人では外部監査は実施していないが、会計に関する外部の専門家（公認会計士）との契約により、経営に関する指導や助言を受け、経営の改善につなげる体制が整備されている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。 <input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。 <input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。 <input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 法人の基本方針に地域との連携等に関する基本姿勢が示されているが、施設の事業計画には、子どもと地域の交流に関する特別な記述はない。乳児院としてできるのは、日常の散歩や、近隣のスーパーマーケットで子どもがお菓子を選んで購入する「買い物の日」の活動で、地域住民との触れ合いがある。地域の人々に施設や子どもへの理解を得るための取り組みは、子どもや保護者のプライバシー保護を最大限に考慮して、なお可能な範囲で行うことを基本方針としている。		
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。 <input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。 <input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している <input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。 <input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。	b ○ ○
【コメント】 地域の学校教育等への協力に対する考え方は法人の基本方針に明記しているが、ボランティアの受け入れに関する姿勢は示しておらず、マニュアルは整備できていない。今後のボランティアの受け入れに関して、関係する学校等との連携のもとでのマニュアルの策定を予定し、地域との交流を図る取り組みを進める方針である。		
(2) 関係機関との連携が確保されている。		
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。 <input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。 <input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。 <input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	a ○ ○ ○ ○
【コメント】 連携が必要となる各関係機関・関係団体の情報を整理して、状況に応じて活用できるよう職員間で共有することができている。また常に連携して情報共有等を密に行う必要のある（例えば児童相談所等）機関・団体とは、定期的な連絡会等の機会を設けている。子どものアフターケア等に関連して、家庭支援専門相談員が要保護児童対策地域協議会実務者会議等により、潜在的なニーズの把握を行うなど、地域で必要となるネットワーク化等に取り組んでいる。		
(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
①	26 施設が有する機能を地域に還元している。 <input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	b

<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○

【コメント】

電話相談の開設や、緊急の場合に利用できるADEの設置や子ども110番等、市街地に立地する施設としてできる支援に対応している。一方で、施設を活用した地域貢献等は、乳幼児の生活環境への影響等を考慮すると困難なケースが多く、地域に出掛けて専門性を活かして行う取り組みに目標を絞っている。ただ、施設が有する機能を地域に還元するための具体的な取り組みに関して、事業計画への位置付けが十分ではないため、積極的な活動につながる取り組みは多くはない。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	

【コメント】

本評価基準の求める公益的な事業・活動に関しては、関係機関・団体との交流等により地域ニーズ等を知る機会はあるが、施設の（人材確保等の）状況からニーズに応えられないのが現状である。地域住民に対する相談事業等に関しても、電話相談や、必要に迫られて来所した関係者に対する随時の対応が主なものである。また民生委員・児童委員が見学を訪れることはあるが、定期的な交流には至っていない。対応可能な事案には誠意をもって支援していることを考慮しても、求められる公益的事業等への対応には、まだ多くの課題が残されている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

基本的人権への配慮に関し、全国乳児福祉協議会による「乳児院倫理綱領」を職員の共通意識として共有している。日常の養育・支援の実践状況を「自己評価チェックリスト」により評価・検討を行い、状況に即した対応を行っている。またケースカンファレンスにより目標とする養育・支援を実施し、自己評価の検討結果と合わせて職員研修等につなげている。それらの状況から、本評価基準が求める内容に対して十分な取り組みがされていると評価できるが、別項の評価対象である、標準的な実施方法の確立に課題が残されていることから、職員の共通理解に影響が及ぶことのないよう、引き続き留意して取り組むことが必要となる。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	○

【コメント】

当該施設では、前述の「乳児院倫理綱領」に加え、乳児院の養育・支援に対する日常の具体的な対応を、職員に意識喚起することと合わせて保護者等に説明する文書として、全国乳児福祉協議会が提供している、「より適切ななかかわりをするためのチェックポイント」に記載された、一つひとつの配慮事項を職員の共通意識としており、職員をはじめ関係者に周知している。子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援を、定められたルールにもとづき適切に実施している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

入所を予定している保護者等に対して、パンフレットや広報誌、ホームページ等により、施設の利用に関する情報を分かりやすく知らせることに努めている。見学の機会にはできるだけ丁寧な説明を行い、必要があれば養育・支援の具体的な内容に踏み込んで理解を促している。社会的養護の制度も含めた社会情勢の変化に対応できるよう、情報提供のための資料等は、状況に即して随時、内容の見直しを行っている。

②	31 養育・支援の開始・過程において保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【コメント】

保護者等はそれぞれに、さまざまな心身の状態の下にあることから、画一的な説明では十分とは言えないと考えており、一人ひとりの状況に適った対応と説明に心掛けている。具体的な養育・支援の内容（例えば行事への参加や健診の付き添い等）において、保護者等の気持ちを尊重して自己決定を促している。常に分かりやすい対応と説明に努めているが、説明に供する文書等にさらに工夫の余地がないか検討しており、職員は現状に満足することなく、より良い支援を目指す姿勢を示している。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

措置変更や地域・家庭への移行等に関して、手順に従い引き継ぎ文書等で養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。児童相談所と連携し、児童養護施設や里親等からのライフストーリーワークへの協力をしている。保護者等に対する退所後の相談等に関して担当者や対応方法等を口頭で伝えているが、文書を提供することはしていない。今後提供方法等の検討を行っていく方針である。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもとの日々の関わりの中で、子どもの満足を把握するように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、保護者等とのコミュニケーションを可能な範囲で図り、定期的に保護者等の満足を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した子どもの満足を集約する担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために検討会議の設置等が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子どもとの関わりの中で満手が得られるよう、養育・支援の質の向上を図りながら日々努力している。現在は職員が子どもに触れ合う過程から満足の度合いを推し量り、職員間で話し合いながら、経験に照らして適切と思われる支援につなげている。職員意見に関しては幹部職員が集約し分析・検討をしているが、ルール等を定めて対応するなどの組織的な仕組みは整備されていない。また保護者等の状況を考慮すれば電話によるコミュニケーションが多くなるが、可能な範囲で意見交換し保護者等の満足につなげている。

(4) 保護者等が意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

法人のホームページで、苦情受付から解決に至るプロセスを分かりやすく示し、過去三年間の苦情受付・解決の件数と、苦情内容を公開している。施設においては、法人の定めた苦情処理体制の規程に従い、受け付けた苦情の受付から検討、解決に至る過程を記録し保管している。また苦情内容を職員会議や勉強会で共有し、解決のための検討と共に今後の養育・支援に活用するための取り組みを行っており、苦情解決の仕組みを確立している。ただ、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫に関しては、検討の余地が残されている。

②	35 保護者等が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b
	<input type="checkbox"/> 保護者等が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	

【コメント】

保護者等に「苦情申出窓口の設置について」の文書の配布や施設内の掲示等で、意見等を誰にでも自由に述べることを旨を伝え、相談先の連絡方法と共に明示している。施設内で保護者等が気軽に相談しやすい雰囲気や環境の確保に努めているが、まだ工夫の余地がある。

③	36 保護者等からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、保護者等が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者等の意見を積極的に把握する取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	

【コメント】

保護者等から相談や意見を受けた場合の対応マニュアルを整備しており、外泊等で一時的に保護者の元にいる場合などの突発的な相談には、適宜対応することを実践している。また面会時等の相談では話しやすい雰囲気作りに努め、意見を傾聴している。第三者評価受審に係るアンケート調査も実施しており、意見箱の活用も積極的に行われている。その他の方法で意見等を把握する工夫と、マニュアルの定期的な見直しへの取り組みが期待される。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

事業計画の中に、リスクマネジメント、安全管理、事故防止、防犯対策をあげ、取り組みを進めている。リスクマネジメントに関する責任者は明確にしているが、委員会等は設置されていない。養育・支援の場面ごとに各職員が安全点検を分担しており、各個所ごとの確認頻度(毎日、毎週、毎月)に従い、点検票にもとづいて実施し、定期的に見直しをしている。リスクマネジメントに関する組織的な仕組みの構築と、そのルールに沿って、職員等に対する安全確保・事故防止の研修を繰り返し実施する取り組みが求められる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	

<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	

【コメント】

感染症が疑われる場合には、マニュアルに従い看護師を中心に適切な対応ができるように、日常的に会議等において話し合いをしている。感染症流行情報が発令されるような、季節ごとに特有の感染症に関する最新の情報を収集することに努め、予防策等を全職員で検討して備えることに努めている。課題として、感染症予防・対応マニュアルの定期的な見直しや、職員に対する研修・勉強会等を計画的に繰り返し実施するなどの、感染症対策の管理体制の整備があげられる。その改善の取り組みが期待される。

③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○

【コメント】

「防災対策規程」や「消防計画等規定・マニュアル」が整備され、各種の防災資機材を整備している。それらの内容について毎年職員に説明が行われ、毎月の防災訓練の実施に合わせ資機材の点検も同時に行われる。飲食料や備品の備蓄も必要数を確保している。防災訓練の際には、行政への通報訓練や消防署の助言等も受けており、関係機関との連携と共に、施設内の対応は適切に行われている。今後の災害後の業務継続に向けた対策として、情報の分野で地域の自治会等との協力関係を築くことも、乳児院としての防災対策の一つと考えられる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	b
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

「養育のマニュアル」にもとづき、毎月の職員会議において「自立支援計画」の確認と反省を行っていることから、個別に実施すべき養育・支援の内容に関しては、標準的な実施方法にもとづいて対応できる仕組みがある。一方で、基本となる部分で（例えばプライバシーへの配慮や基本的な相談・支援技術等）標準化できる内容に関しての文書化が十分とは言えない。職員が基本的に実施する必要のある内容をマニュアル等にまとめ、一定水準の支援内容を担保する標準的な実施方法の確立と、職員への周知が求められる。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	

<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	

【コメント】

現在の「養育のマニュアル」は、必要に応じて随時見直しを行うことで現状に合わせてきた経緯がある。そのため毎月評価・見直しを行い、一人ひとりの「自立支援計画」にもとづいて実施される養育・支援の内容と、これまで「養育のマニュアル」に明記されてきた基本的な養育・支援との間で、整合性の保てない箇所が生じる懸念がある。「自立支援計画」の内容から、標準的な実施方法に適切に反映させることができるよう、現状のマニュアル類を見直したうえで補完し、定期的な見直し時期を定めて、状況に即した標準的な実施方法を確立することが求められる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、保護者等の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	○

【コメント】

全体会議(職員会議)において他職種の関係職員も参加し、アセスメントの情報を全職員で共有している。それらによる一人ひとりのニーズにもとづき自立支援計画を策定しており、専用の書式(支援目標・実施計画、支援反省)を活用し、個々の状況を把握して自立支援計画との整合性を確認している。合わせて支援困難ケースに関する対応もケースカンファレンスで検討し、それぞれ自立支援計画に反映している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者等の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【コメント】

3か月ごとに自立支援計画の評価・見直しを実施し、その間は毎月実施する支援目標・支援反省・成長記録で対応している。6か月ごとに行う児童相談所との検討会議により、自立支援計画の内容を共有して調整している。自立支援計画の評価・見直しにあたり、標準的実施方法に反映すべき、養育・支援の質の向上に関わる課題等の掘り起こしに検討の余地がある。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【コメント】

自立支援計画にもとづく養育・支援が適切に実施されているかは、健康日誌、観察日誌、看護記録等、日々の健康発達に関する記録から「支援目標・反省」の書式に整理され、居室への掲示と合わせ、コンピューターシステム上で確認できる。支援目標、支援反省、及び成長記録の書類は見開きで一覧できるようにファイリングされ、職種の異なる職員間でも情報共有しやすい工夫が施されている。記入の方式や他の書類へ展開する場合のルールも統一されている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○

【コメント】

法人の「個人情報及び機密情報管理規程」により、法人全体の記録管理責任者及び管理者を設置し、施設ごとに管理者を置いている。全職員は入社時に個人情報取り扱いの説明を受け、個人情報保護の遵守を誓約している。ただ、個人情報保護等の観点から、記録の取り扱いに関する情報管理の教育・研修等は定期的実施するのが望ましいが、その取り組みが不足している。個人情報の記載された書類等は鍵付きの書庫で管理し、コンピューターシステム上の電子データの閲覧に関しては、使用する個々の端末機にパスワードが設定されている。

□

内容評価基準（22項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結
<p>① A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているか、振り返り検証する機会が設けられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員が、子どもの最善の利益の実現を目指し、子どもによりそい、その思いを代弁する役割と使命を共通理解し、その実現に努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの最善の利益を実現させるために、日々の養育・支援に関する姿勢や子どもへの接し方等について、振り返り改善する取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設全体の養育・支援の質の向上を図るために、研修や自己研鑽によって職員が専門性を高めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育実践や養育の内容に関する職員の共通理解や意見交換を図る機会を設け、協働性を高めるよう取り組んでいる。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>毎月職員全員が参加して職員会議・勉強会を実施し、ケースカンファレンス・チェックリスト等により、養育・支援の実施状況の振り返りを行っている。この中で、社会的養護の目指す養育・支援に対する姿勢や内容に関して、共通理解を図っているが、特に支援困難ケース等の対応については、職員の共通理解が十分ではないとの分析があることから、改善に向けて、該当するケースに関する観察の状況を職員間で共有し、原因の分析と合わせ対応方法の統一を図る取り組みを進める方針を示している。</p>	
<p>(2) 被措置児童等虐待対応</p> <p>① A2 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に具体的な例を示して体罰等の禁止を明記している。</p> <p><input type="checkbox"/> 体罰等があった場合を想定して、施設長が職員にその原因や体罰等の方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつくられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 体罰等の起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、体罰等を伴わない的確な援助技術を習得できるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 体罰等の禁止を職員に徹底するため、日常的に会議等で体罰等を取り上げ、行われていないことを確認している。</p>	<p>c</p> <p>○</p> <p></p> <p></p> <p></p>
<p>【コメント】</p> <p>「就業規則」の規程の中に、体罰等の禁止を明記する服務規律が定められており、職員に、いかなる場合においても子どもの人格を辱める行為を行わないよう示している。ただ、具体的に体罰等が引き起こされる場面や原因に関して、日常的に話し合う機会が十分な確保はできていない。本年度の自己評価を機に、体罰に関する考えを職員の一人ひとりが相互に示し、原因や防止策を検討する機会を設けて職員の共通意識の醸成を図っている。今後の具体的な取り組みとして、定期的な研修等の必要性を確認している。</p>	
<p>② A3 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例(ヒヤリハット等)を示し、職員に徹底している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、乳幼児からの訴えやサインを見逃さないよう留意している。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うようなリスクマネジメントがなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、研修や話し合いを行い、これによらない援助技術を習得できるようにしている</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p></p> <p></p>

<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制(配置や担当の見直し等)を検討している。	○

【コメント】

具体的な子どもへの対応に関して、ケースカンファレンスの記録をもとに話し合いを行っている。一方で、不適切なかかわりの防止や早期発見の観点から、職員全員で日常的に話し合う機会は設定しておらず、職員各々の対応に委ねられているのが現状である。不適切なかかわりの防止等に関する厳正な規程の策定や、そのルールにもとづいた対応によるリスクマネジメントに、組織的に取り組むことが求められる。

<p>③ A4 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。</p>	b
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたとき、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備されている。	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、研修会などで職員に周知している。	○

【コメント】

被措置児童等虐待対応ガイドラインにもとづく届出・通告に関するマニュアルにより、職員に周知する取り組みを行っているが十分とまでは言えない。また、被措置児童等虐待が疑われる事案が発生した場合の、施設内の検証や、児童相談所や市の担当部署との連携など、第三者の助言・指導等による施設運営の改善に向けた、対策のための手順や仕組みの整備が十分ではないことから、適切な対応ができる体制の整備が求められる。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本	第三者 評価結
<p>① A5 子どものこころによりそいながら、子どもとの愛着関係を育んでいる。</p>	b
<input type="checkbox"/> 乳幼児に対する受容的・応答性の高いかかわりを心がけている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもと養育者の信頼関係が築かれ、子どもが不安になった時など、いつでも応じられるように養育者が側にいるよう配慮されている。	○
<input type="checkbox"/> どの乳幼児も保護者等、あるいは担当養育者、里親等、特定のおとなと個別のかかわりを持つことができる体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 特別な配慮が必要な場合を除いては、基本的に入所から退所まで一貫した「担当養育制」をとっている。	○
<input type="checkbox"/> 担当養育者と個別のかかわりを持つことができる時間を確保している。	
<input type="checkbox"/> 語りかけや「だっこ」「おんぶ」などの身体のふれあいを通して心の安定を図り、心地よい状態を共有できるよう努めている。	○
<input type="checkbox"/> 被虐待経験のある乳幼児等特別な配慮が必要な乳幼児に対しては、個々の状態に応じた関係づくりを行っている。	○

【コメント】

子どもとの愛着関係を育む養育に心掛け、できるだけ担当養育性を維持できるように気配りをしている。子どもが不安な状態になった時などの対応においては、共に過ごす時間を作ることに努めており、特別な配慮を必要とする子どもに対しても、それぞれの状態に対応して関わりを持っているが、職員はまだ、個別の関わりが不足していると感じている。施設では常に子どもに寄り添う養育・支援に努めていることから、子どもが安心して職員に信頼を寄せている現在の関わりを維持し、質の高い養育・支援を継続していく取り組みが望まれる。

②	A6 子どもの生活体験に配慮し、豊かな生活を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 日々の生活リズムは発達や子どもの気持ちに沿いながら一人ひとりにあった形で進められている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に子どもが安心して暮らせる温かな家庭的雰囲気がある。	○
	<input type="checkbox"/> 居室が安心して、くつろいだり、落ち着ける場所になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 安定した環境の中、おもいおもいに遊ぶことができる安全で使いやすい遊具などがあり、自由に遊びに取り組めるよう配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他児と区別された「自分のもの」といえる玩具、食器、衣類、戸棚などの個別化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 満足感の得られる養育者との遊びの時間を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 自然と触れ合える外遊びが養育者との十分なやりとりを交え提供されている。	○

【コメント】

日常的な戸外の遊びや買い物、菜園の果物の収穫など、できるだけ多くの体験の機会を設けている。家庭的養護に向けた小規模グループケアを見据え、今できることに取り組み、家庭的雰囲気の醸成に努めている。子どもが自由に遊びに取り組める配慮に関して、さまざまな工夫をして遊びの環境づくりに努力しているが、まだ取り組むべき課題が残されているのが現状である。

③	A7 子どもの発達を支援する環境を整えている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育者は、月齢による発達特性(自我の表出等)を認識し、養育に当たっている。	○
	<input type="checkbox"/> 入所までの生活環境や身体的成長の差等から生じる子ども一人ひとりの違いを十分に把握し、尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの欲求や要求に対し、抱いたり声をかけるなど、タイミング良く気持ちを受け止め対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個々の発達や状態に応じた適切な言葉を用い、穏やかに言葉かけをしている。	○
	<input type="checkbox"/> 言葉を獲得し話し始めた子どもの問いかけには、できる限りその場で応答している。	○
	<input type="checkbox"/> 「いや」など駄々をこねたり、自分を表現する力がまだ十分でない子どもの気持ちをくみ取ろうとしている。	○

【コメント】

発達状況による子ども一人ひとりの違いを認識して、さまざまな状況に対応できるよう、具体的な養育の行動等につなげている。認知行動療法による心理的対応の言葉掛けなども用い、一人ひとりの子どもの欲求や要求に対応しているが、実践状況を振り返ると、少ないながらも十分な支援につなげていないケースもある。施設では目標に届かないケースの課題を掘り起こし、検討を重ねながら養育・支援に取り組んでいるので、その成果を全職員で共有して、今後の支援につなげられる環境の整備が期待される。

(2) 食生活

①	A8 乳幼児に対して適切な授乳を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 授乳は、自律授乳を基本としつつ、個々のリズムや体調に合わせて量や時間を工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 授乳時は、乳幼児を抱いて、目を合わせ、やさしく言葉をかけ、ゆったりとした気持ちで飲めるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 授乳後は、吐乳・溢乳等を防ぐために排気を十分に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人飲みをさせていない。	○
	<input type="checkbox"/> 生体リズムの乱れなどで自律授乳や自発的意思の授乳が難しい乳幼児には、その子の状態に応じた授乳を工夫している。	○

【コメント】

授乳間隔の目安を定めているが、一人ひとりの状況に対応した間隔や量を確認し、調節しながら判断している。それらの情報は職員間で、都度共有する必要があることから、互いの連絡はホワイトボードを活用して、速やかに情報共有できるように配慮している。また一人飲みはさせないことを基本としており、必ず職員が付き添って授乳している。

②	A9 離乳食を進めるに際して十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 在胎期間も含め、入所に至るまでの経過や発育、発達状況を踏まえ、一人ひとりに合わせた食の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の状態に合わせて離乳を開始し、様々な食べ物や味に慣れさせている。	○
	<input type="checkbox"/> 食事をいやがったり遊びだしてしまう場合にも、時間をかけてゆったりとした気持ちで与えている。	○
	<input type="checkbox"/> 噛む力を養うために、食品の種類や調理方法を工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 栄養士や調理員等は養育者とともに、咀嚼や嚥下の状況を確認し発育状況や体調を考慮しながら離乳食を進めている。	○

【コメント】

栄養士や調理師が担当する乳幼児の食事介助に入り、発育・発達の状況を把握して調理に活かしている。大きさや形や硬さ、切り方や味付け等を組み合わせ、乳幼児の食べ方などから調理方法を工夫している。現在まで、アレルギーに関する事故は発生していないが、万一、アレルギー症状が出た場合は直ちにその場面を画像データとして記録し、今後の対応につなげられるようにしている。

③	A10 食事がおいしく楽しく食べられるよう工夫している。	b
	<input type="checkbox"/> 食事場所は清潔に保たれ、明るく楽しい雰囲気でき食事ができるよう工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが食べやすいように、身体に合わせてテーブルと椅子の高さを適切に調整している。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児が自分で食べようとする意欲を育てられるように、手に持って食べやすいものを用意したり、食器やスプーンなどに触れられるように配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 食前の手洗い、食前食後のあいさつ、食後の歯磨きなどが定着するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育者や他児と一緒に食事を楽しんでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 食事の食べ方や量にばらつきがあっても全部食べることにこだわらず、おいしく楽しく食べられるように、子どもと視線を合わせ、様子をみながら言葉をかけるなど雰囲気づくりに気を配っている。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の食生活を通じて食べたいものや好きなものが増える工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> お腹がすくりズムが持てるよう、朝食・昼食・夕食の間隔は適正になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 栄養士、調理員等が、食事の様子をみたり、介助するなか、一人ひとりの発育状況や体調を考慮した調理を工夫している。	○

【コメント】

食事の問題行動（食べながら遊ぶ、食器等を投げるなど）のある乳幼児に対し、周りの乳幼児に被害が及ばないよう食事の開始時間をずらす等の配慮をしている。施設では、偏食の傾向や一部の食材を受け付けない乳幼児に対しては、無理強いすることなく“一口だけ”でも食べられることを目指す方針を持っている。また、職員も一緒に乳幼児の様子を見ながら食事を摂ることによるメリットは認識しているが、今後の検討課題としている。

④	A11 栄養管理に十分な注意を払っている。	a
---	-----------------------	---

<input type="checkbox"/> 十分なカロリーと栄養のバランスよい献立が、栄養士により準備されている。	○
<input type="checkbox"/> 栄養だけではなく季節感を取り入れた食事が提供されている。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の体調、疾病、アレルギー等に個別に対応した食事を提供している。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の嗜好や栄養摂取量の把握に努め、献立に反映している。	○
<input type="checkbox"/> さまざまな「食育」への取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 発達に応じて、食事の準備や食事作りを見たり、かかわる機会を持ち、食べることに興味関心を持つことができるよう工夫している。	○

【コメント】

栄養士や調理員の、職員間の連携はとれており、栄養摂取量や嗜好等のチェックが適切に行われ、献立に反映されている。食育の観点から、食材を絵で表示したり、施設の菜園で収穫した野菜で献立を考え、乳幼児に食材への興味を持ってもらう取り組みをしている。目先から食べたくなる工夫として「わんわんケーキ」や「子供の日クッキング」などの趣向もある。またアレルギー児に対して食材排除も実施しており、乳幼児の栄養管理と共に、楽しく食事ができるような工夫が取り入れられている。

(3) 衣生活

① A12 気候や場面、発達に応じた清潔な衣類を用意し、適切な衣類管理を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 衣類は吸湿性・通気性に富み、清潔を保ち、肌に刺激の少ない材質を使用している。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の体型を考慮し、活動を阻害せず、着脱が容易なものを使用している。	○
<input type="checkbox"/> 気候調節へ配慮し、寒暖の状態に適した枚数と厚さにしている。	○
<input type="checkbox"/> 寝ている生活が主なときは前開きのものを、動きが活発になったら活動的で腹部や背中に出ないものを選ぶなど、生活実態に適し、個々の発達に応じた衣類管理を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 衣類は個別化し、個人別に収納している。	○

【コメント】

衣類や寝具等は、個別化することで乳幼児の活動面や体質面に目を向けた支援につなげている。衣類は収納ケースで個々に保管しており、職員は季節による気温の変化や行動場面に配慮して、適切に管理できるように気配りしている。パジャマやエプロンは職員手作りのものを提供している。

(4) 睡眠

① A13 乳幼児が快適に十分な睡眠をとれるよう取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 室内の環境として、温・湿度、換気、明るさ、静かさ、音楽などを快適に保っている。	○
<input type="checkbox"/> 寝具の環境として、肌に触れる素材は綿素材を用い、広さ、形状、硬さなどを快適に保っている。	○
<input type="checkbox"/> 睡眠時の状況を観察している。	○
<input type="checkbox"/> 快適に十分な睡眠をとれるよう、個々の乳幼児の発達・心理に配慮した職員への対応など具体的な独自の取組を行っている。	○

【コメント】

睡眠時は乳幼児の体格によりベッドを使い分け、脈拍や体温などのバイタルサインにも注意を払っている。室内の温度・湿度・採光の調整に加え、音楽による環境を整えると共に、眠りの浅い乳幼児には遮光等で安心して入眠できる工夫も行っている。夜間は30分間隔で見回りをしており、睡眠時の様子は記録して日勤者へ申し送りを行っている。

(5) 入浴・沐浴

① A14 快適な入浴・沐浴ができるようにしている。	a
----------------------------	---

<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴を毎日している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 浴室・沐浴槽などの設備やタオル・バスタオルなどの備品は常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 乳幼児の年齢、発達、発育等、個々の状況に応じた入浴方法がとられている	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 安心して、心地よく、楽しい入浴・沐浴になるような言葉掛けなどの配慮がなされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 入浴・沐浴に際し、おもちゃ等を用意し、心地よい体験になるよう工夫している。	<input type="radio"/>

【コメント】

入浴は毎日実施しており、浴室やタオル等の備品は都度消毒を行って清潔を保っている。爪切りは毎週土曜日に行うことにしている。皮膚疾患やオムツかぶれ、あせも等の子どもは必要に応じ入浴の順番等を変更している。また不安等の感情を表出する子どもに関して、状況を記録に残し原因と対策を検討することになっている。乳幼児の発達・発育等の状況に応じて適切に入浴できるよう配慮している。

(6) 排泄

①	A15 乳幼児が排泄への意識を持てるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> おむつ交換のときに、言葉をかけながら身体をマッサージなどして、おむつ交換が心地よいものであることを伝えるように心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、排泄への興味を持てるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、おむつが濡れていないときは、便座に誘導するなどして自分から便座に座る意欲を持てるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、個々の幼児のリズムや気持ちに合わせて誘導を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

起床後にトイレに座ってもらうことで排便を促している。便意がありそうな行為が見られたときはトイレに誘導している。2歳前頃からトイレトレーニングを行うようにしており、状況に応じて、オムツパッド、トレーニングパンツ等の利用でトイレトレーニングを心がけている。

(7) 遊び

①	A16 発達段階に応じて乳幼児が楽しく遊べるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 玩具の色・形や音色などを選ぶように工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 戸外に出かけ、外界への興味を広げられるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 模倣遊びや職員や他の乳幼児とのふれあい遊びを通して、情緒の育成を図り、人との豊かなかわりができるように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 養育者や他の子どもと楽しく遊ぶことができるよう心がけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの五感を育てる遊びが提供できるよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 月齢により、収納場所を設け、玩具の個別化をし、自分の物という喜びや認識ができるよう工夫している。	<input type="radio"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもの手の届く所に玩具の収納場所を設け、年齢によっては自由に出し入れして遊べるようにしている。	○
--	---	---

【コメント】

乳幼児の年齢に応じた玩具を用意し、楽しく遊べるようにしている。個別の玩具の数は限られているが、面会室に個別玩具の収納棚を設け、乳幼児が自由に玩具を選んで遊ぶことができるよう配慮している。戸外の遊びでは散歩を日課としている。また職員と動物園に遠足に出掛けたり家庭生活の体験機会を設けており、施設では今後さらに、さまざまな体験を通して総合的な発達を促す考えを示している。

(8) 健康

①	<p>A17 一人ひとりの乳幼児の健康を管理し、異常がある場合には適切に対応している。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 健康観察記録を作成し、日々の健康状態の変化が一目で把握できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 日常的に医療機関等と適切に連携するよう努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 嘱託医による定期健康診断では、身体発育の状態や精神・運動発達・情緒的問題等について総合的な診察を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 乳幼児の条件や集団の構成に応じて、適宜予防接種を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 異常がある場合には、医療機関を受診するなど適切に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> ミルクや離乳食を開始した当初は、発疹などアレルギー症状の出現に注意し、異常所見が見られた場合には速やかに医師に相談し対応策を講じている。	○

【コメント】

乳幼児の健康管理については、日常業務の中で「健康日誌」「看護記録」により、乳幼児一人ひとりの健康状態を把握している。怪我や発疹がある場合、その状態によっては写真に記録してその後の経過観察や対応に備えている。また健康状態に異常が認められる場合、直ちに病院への受診等が可能なように職員の配置等で対応している。施設においては毎週嘱託医の往診があり、加えて月に1回程度、小児精神科医や理学療法士が支援のために来所するなど、医療機関・関係者等との適切な連携による協力態勢を整えている。

②	<p>A18 病・虚弱児等の健康管理について、日常生活上で適切な対応策をとっている。</p>	a
	<input type="checkbox"/> 病・虚弱児等個々の健康状態の変化が、常に把握できるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 服薬管理表等により、適切な服薬管理を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医の協力のもと、乳幼児の健康状態に応じた療育計画や発達支援計画などを含む支援のプログラム等を作成して、乳幼児の適切な発達を支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 専門医や主治医による定例的な診断を受けている。	○
	<input type="checkbox"/> 異常所見がみられた場合には、速やかに専門医や主治医に相談できる連絡体制をとっている。	○

【コメント】

身体的な発達遅滞等でリハビリテーションの必要がある乳幼児に対して、関係機関や理学療法士の助言を受け、日常生活上の配慮や対応を検討して支援計画や具体的な支援につなげている。服薬を必要とする乳幼児に対する服薬管理に関しては、定められたルールに沿って「服薬管理表」による二重チェック体制で対応しており、職員は適切な服薬コンプライアンスを実施している。

(9) 心理的ケア

①	<p>A19 乳幼児と保護者等に必要な心理的支援を行っている。</p>	b
---	-------------------------------------	---

<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする乳幼児について、保護者等への支援も視野に入れた自立支援計画や養育計画に基づき、心理支援内容が明示されている。	
<input type="checkbox"/> 心理支援内容には、個別・具体的方法が明示されており、その方法により心理的支援が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 心理職をおき、乳幼児にも保護者等にも心理的な援助を行える体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○
<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関する職員研修やコンサルテーションが行われている。	○

【コメント】

乳幼児への心理的な支援に関しては、自立支援計画及び養育計画の心理的支援の記述内容にもとづき、心理担当職員を中心に各担当職員が共有して実施している。また、心理的ケアが必要な乳幼児や保護者等への対応に関して、職員への研修を実施すると共に、精神科医に相談し助言を受ける機会を設けている。一方で保護者等への援助体制も整備しているが、自立支援計画等に保護者等への支援が位置づけられておらず、十分な援助につながっていないことが課題として残っている。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

① A20 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員が中心となって施設と家族との信頼関係を構築するように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 施設が家族と共に子どもの成長を喜び合う雰囲気を大切にしている。	○
<input type="checkbox"/> 面会時に必要に応じて保護者等の養育スキルの向上を支援している。	○
<input type="checkbox"/> 保護者等の相談に積極的に応じるための保護者等面接の設定等、専門的なカウンセリング機能の充実に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員は、家族に寄り添い、保護者等の言葉を傾聴する役割を担っている。	○
<input type="checkbox"/> 乳幼児の協働養育者として、日常生活の様子を写真やお手紙に書いて家族に伝えている。	○

【コメント】

家族に向け年4回発行している「おたより」は個別に対応しており、日常の生活の様子等、子どもの成長を伝える良い機会と捉えている。家庭支援専門相談員を核として、家族との信頼関係を築くことに努めており、合わせて児童相談所との情報共有等を図っている。また保護者等に積極的に面会交流を促して相談支援につなげ、必要に応じて養育に関するスキルアップのための支援を行っている。

(11) 親子関係の再構築支援

① A21 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/> 家庭支援に関する具体的なプログラムや配慮事項が明記されている。	○
<input type="checkbox"/> 入所理由の理解とケアの方向性についてアセスメントしている。	○
<input type="checkbox"/> 子どもと家族との関係調整については、定例的かつ必要に応じて児童相談所等と協議を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、施設宿泊、一時帰宅などを計画的に設定し、乳幼児と保護者等との関係性が好転し、保護者等の養育意欲が向上するよう支えている。	○
<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅後の乳幼児の様子を注意深く観察し、家族からの不適切なかかわりがあった場合には、その発見ができるように努めている。	○
<input type="checkbox"/> 課題の内容によっては適切な機関につなげられるよう、地域の精神、心理相談のできる機関を十分に把握し、連携をとっている。	○

児童相談所を中心とした他機関との協働により、虐待の未然防止と家族機能の再生に向けてのサービス資源の提供などのソーシャルワークを行っている。

【コメント】

児童相談所との協議を行い、役割分担により互いが把握している情報を適切に共有している。入所時に児童相談所のアセスメント等による家庭の状況や援助指針等に加え、保護者等との面接・面会による情報から施設としての支援方針を作成している。定期面会の際には、心理担当職員や家庭支援専門相談員等が共に養育スキルの獲得状況等を観察し、必要な支援を行っている。外出・外泊等の機会に、保護者等との関わりや、子どもの食事や睡眠、遊び等の日常の状況をできるだけ詳細に聴き取り、支援につなげている。

(12) スーパービジョン体制

①	A22 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性の向上や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	<input type="radio"/>

【コメント】

スーパーバイザー及び基幹的職員を設置しており、職員は随時相談して支援を受けることが可能である。さらにスーパーバイザーや基幹的職員に加えて一般職員も、必要に応じて小児精神科医や理学療法士など、外部の専門家から指導・助言を受けることもできる。また職員が相互に評価し、助言し合う機会も確保できている。ただ、定期的なスーパービジョンの機会が定められておらず、組織的なスーパービジョン体制の整備は十分とは言えない。